

主催 霞山会・立命館アジア太平洋大学

# 「Think Asia—アジア理解講座」シンポジウム

会場 立命館アジア太平洋大学F210教室

(大分県別府市十文字原1-1)

日時 2017年12月10日(日)13:00~17:45

## 歴史に学ぶ

# 明治期 アジアへの まなざし



FREE ADMISSION  
入場  
無料

—より良き関係構築を目指して—

欧米列強による「外圧」のなかで成立した明治期日本にとって、国家の独立を維持し、さらには日本を列強に対峙しうる国家にまで育て上げることは焦眉の課題であった。だが、これらの課題を独力をもって達成することは決して容易なことではなかった。ここに、欧米列強に対抗するために、同じく「外圧」に直面していたアジアの近隣諸国・諸民族と連携することによってアジアを回復・復興し、その過程のなかで日本の独立を維持し、アジアの一員として列強に対峙していかうとする思想、いわゆる「興亜」思想が登場することになる。しかしその一方で、日本は独立と万国対峙を達成するために、〈敵〉である欧米列強に学び、自らも「西欧化」し、場合によっては列強と結ぶ必要があった。明治人は「欧米とアジアの間」という問い掛けに否応なく向き合わされることになったのである。100年以上も前、この難問に直面したひとびとは、いったい何を考え、どう行動しようとしたのか？そして我々は、いかに考え行動すべきなのであろうか？

<開会挨拶>

池田 維(一般財団法人霞山会理事長、立命館大学客員教授)

山神 進(立命館アジア太平洋大学教授、学校法人立命館理事補佐)

<報告者>

藤田佳久(愛知大学名誉教授)「東亜同文会—教育者としての近衛篤磨」

山崎有恒(立命館大学)「中川小十郎の〈アジア〉」

クリストファー・スピルマン(帝京大学)「19世紀の人種論とアジア—近衛篤磨のドイツ留学の経験を中心に」

嵯峨 隆(静岡県立大学)「樽井藤吉と大東合邦論」

高木宏治(陸羯南研究会)「東邦協会—近衛篤磨・陸羯南等のアジアへの視線」

栗田尚弥(國學院大学)「揺れ動くアイデンティティ—欧州への〈思い〉と「同人種同盟論」の間で」

<司会>

高村聰史(國學院大学)

<コメンテーター>

阿部純一(一般財団法人霞山会常任理事・研究主幹)

<開会挨拶>

星 博人(一般財団法人霞山会常任理事)

後 援：公益財団法人陽明文庫 中国書店 陸羯南研究会

申 込・問 合 せ：一般財団法人霞山会 〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47 赤坂霞山ビル1階

電話：03-5575-6301 FAX：03-5575-6306 E-Mail：koudoku@kazankai.org

HP：<http://www.kazankai.org>